

目 次

第2号（3月5日）

○出席議員及び欠席議員氏名	1
○会議録署名議員の氏名	1
○職務のために議場に出席した者の職氏名	1
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	2
○議事日程	3
○開 議	4
○一般質問	4
南　　ゆかり　君	4
笠　原　秀　樹　君	9
○散　　会	14

出席議員及び欠席議員氏名

議席番号	氏名	出席	欠席	摘要
1	高田 浩樹	○		
2	南 ゆかり	○		
4	藤野 菊信	○		
5	米沢 康彦	○		
6	田中 太左エ門		○	
7	佐々木 一郎	○		
8	齋藤 稔	○		
9	伊部 良美	○		
10	青柳 良彦	○		
11	笠原 秀樹	○		
12	木村 繁	○		
13	北島 忠幸	○		
14	吉村 春男	○		

会議録署名議員の氏名

1 番議員	高田 浩樹	2 番議員	南 ゆかり
-------	-------	-------	-------

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局長	佐々木 大輔	事務局書記	杉森 匡
------	--------	-------	------

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	内藤 俊三	副町長	野 賢一
教育長	久保理恵子	総務理事	出口 俊一
民生理事	上坂 明子	産業理事	牧田 芳広
建設理事	畑 雅樹	教育委員会事務局長	吉田 純子
会計管理者	佐々木靖郎		

令和2年3月越前町議会定例会議事日程〔第2号〕

令和2年3月5日（木）

日程第 1 一般質問

開議 午前10時00分

○議長（青柳良彦君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員数は12人です。なお、田中議員から午前中の欠席届が提出されております。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。議事日程については、お手元に配付のとおりです。

日程第1 一般質問

○議長（青柳良彦君） 日程第1 一般質問。

昨日に引き続き、一般質問を行います。

2番、南ゆかり君。

なお、南ゆかり君から時間延長申請と手話通訳を行いたい旨、申し出がありましたので、20分間の時間延長と本日議場内での手話通訳を許可します。

2番（南 ゆかり君）登壇

○2番（南 ゆかり君） 議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

まず、新型コロナウイルスによって、世界中が先行き不透明となり、本町もいろいろな影響が出ていて大変な中、日々対応していただく町の職員さん、関係者各位の皆様にご心から感謝申し上げます。引き続き、町民の皆さんが健康で安心して生活できるようによろしくお願いいたします。

それでは、1つ目の手話言語条例制定に向けての取組について質問いたします。

手話言語条例の制定は、聾者のコミュニケーション手段である手話を言語として位置づけ、英語、ドイツ語、フランス語など外国語を習うように健常者も手話を学習することで、聾者の生きやすい社会を目指すとともに聾者と健常者の共生社会を実現するために必要です。

2013年、鳥取県で我が国初めての手話言語条例が制定されてから、今年1月下旬まで27道府県8区220市44町が制定されました。福井県内は、3月議会で鯖江市と越前市で制定される予定で、あとは敦賀市と小浜市を残すのみです。町では、まだどこでも制定されておられません。条例制定後の市民や町民の変化や反応は、教育面や全ての人に優しいまちづくりの面に効果をもたらしています。行政だけではなく、様々な人々が自主的に動き始め、地域や町が変わろうとしています。条例は手話関係の取組だけではなく、ほかの障害者や高齢者関連の分野にも好影響を与えつつあります。

越前町では、既に聴覚障害支援が始まっていますので、手話言語条例の制定に向けて取り組んでいただきたいと思います。町長のお考えを伺います。

それでは、もう一つの交通デザインの進捗状況に向けての質問をいたします。

鉄道のない越前町の持続可能なまちづくりに交通対策は必須です。お年寄りや学生、車の運転ができない方たちが安心して住める町をつくっていくには、公共交通は重要課題です。

これまで、町はアンケート調査を行いました。公共交通のニーズを把握して公共交通を利用する人が増えるような工夫、アイデアはありませんか。観光と福祉の視点で発想してみるのはいかがでしょうか。例えば人とのつながりを生むカフェやサロンをバス停にして、人気目的地をつくる、またバスの移動時間は長いので、乗客が時間を有効に使えるようテレビを流したり、ビデオを使用して座ってでき

るストレッチ体操やクイズ等のレクリエーションを取り入れるなど、時間を忘れるほど乗ること自体が楽しくなるような何か工夫をしてみたいでしょうか。

交通デザインプロジェクトチームのメンバーは、どのように選ばれたのでしょうか。メンバーの中にコミュニティバス等公共交通を日頃からよく使う利用者はいるのでしょうか。実際にバスで移動したり、利用してみないと分からないことがたくさんあるので、皆でコミュニティバスに乗って越前町を周遊するモニターツアーを企画してはどうでしょうか。お伺いいたします。

○議長（青柳良彦君） 町長。

町長（内藤俊三君） 登壇

○町長（内藤俊三君） それでは、南議員のご質問にお答えをいたします。

まず、手話言語条例の策定に向けての取組についてでございますが、町では第3次越前町障害者計画の基本理念に、地域でともに安心して、自分らしく、生きがいをもって暮らせるまちを掲げ、町民誰もが障害の有無に関わらず、その能力を最大限に発揮しながら、安全に安心した生活ができるよう、また障害のある人も生きる喜びを感じることができる町を目指し、様々な施策を実施しているところでございます。

聴覚障害者や聾者の方への施策といたしましては、意思疎通支援事業や手話奉仕員養成研修事業、また障害者理解促進研修・啓発事業を実施しております。意思疎通支援事業では、医療機関を受診するときなどに円滑な意思疎通を図るため、手話通訳者や要約筆記者を派遣する事業を行っております。

それに加え、役場窓口での意思疎通の円滑化を図るため、平成30年度と令和元年度に役場福祉課と各地区住民サービス室にタブレットを設置いたしました。タブレットでは、健聴者の方が電話で問い合わせをするような感覚で、無料通話アプリLINEで文字による問合せや連絡を行っております。また、テレビ電話機能を用いて職員と手話でのやり取りも行っております。さらに、窓口では手話と併せて筆談も行っておりますが、より会話を円滑にするため音声を認識して、即座に文字化する無料のアプリも導入いたしました。

手話奉仕員養成研修事業では、聾者の方の日常生活を支援するため、手話奉仕員を養成する手話奉仕員養成講座を実施しております。現在、2年かけて入門編と基礎編の講座の受講を終了し、手話奉仕員の資格を得た方は25人いらっしゃいます。令和元年度からはこの講座の受講者を増やし、聾者の方への理解と支援と広げていきたいという思いから手話奉仕員養成講座の入門編を受講される方のテキスト代を助成することといたしました。また、聾者の方から手話で話せる職員が窓口にいても、役場の職員は人事異動で替わってしまうと心配する声をお聞きしました。そこで、今年度は窓口対応する職員に呼びかけ、7人の職員が手話奉仕員養成講座入門編を受講いたしました。

障害者理解促進研修・啓発事業では、平成30年度と令和元年度に役場職員や民生委員児童委員、また地区婦人会の方を対象にミニ手話講座を実施いたしました。今後も町民への手話の普及や理解促進を図るため、これまでと同様に手話奉仕員養成講座や手話ミニ講座を継続して実施するとともに、小・中学校の総合的な学習の時間での手話を用いた活動や、町のイベントでの手話通訳者設置などに取り組んでまいりたいと存じます。

議員ご質問の手話言語条例につきましては、2006年に国際連合において障害者権利に関する条約が採択され、国際的に手話が言語として位置づけられました。国においても2011年に障害者基本法が改正され、手話が言語として位置づけ

られ、共生社会の実現の推進が盛り込まれております。この法改正を受けて、県や市町で手話言語条例が制定されてまいりました。手話言語条例を制定することは、全ての人たちに手話は言語であることを認識していただき、聾者の方々が安心して日常生活を送ることができる共生社会の実現に寄与するものであると認識をしております。

町といたしましては、条例制定に向け、まず聾者や聴覚障害者に対する理解を深めるための研修会や、近隣市町の条例の勉強会を行ってまいりたいと存じます。また、越前町聴覚障害者協会をはじめ、様々な方々のご意見をお聞きしながら取り組んでまいりたいと考えております。

次に、交通デザインについてお答えをいたします。

交通デザインについては、平成30年6月の定例会で、議員から越前町独自の交通デザインをつくってはどうかのご提案をいただきました。ちょっと私事ですが、この南議員からの交通デザインという言葉が非常に新鮮に考えられまして、これからはこの交通デザインでいこうというふうに思いました。それまでは公共交通とかこういう名前であったんですが、交通デザインということで統一して、プロジェクトもそういうふうにやろうということで考えました。ありがとうございます。

町ではこのご提案を受けて、同年9月に町職員で構成するプロジェクトチームを発足させ、将来につながる町の交通デザインについて検討を始めました。このプロジェクトチームでは町民の利便性、経済性、実現可能性などを踏まえ、例えばJR福井駅や武生駅、鯖江駅のほか福井鉄道の福武線神明駅、さらには北陸新幹線南越駅、仮称ですけれども、をルートとした幹線の整備案や路線バス停からの自宅までの距離の課題を整理しながら検討をしております。また、プロジェクトチームでは令和元年8月に実施した公共交通に関するアンケート調査結果について、課題の整理と検討をしております。

公共交通に関するアンケート調査は、町民2,500人を対象に実施し、回収率44%で1,089人の方から回答を頂きました。アンケート結果に表れた町民のニーズの主なものを申し上げますと、1点目は通勤・通学に関する事で、近隣市への通勤や高校へ通学するための移動手段を確保すること、2点目は買物に関する事で、地区別では朝日地区が地区内のショッピング施設への移動手段の確保、宮崎、越前、織田地区では織田地区内のショッピング施設への移動手段の確保がございました。3点目は通院に関する事で、織田病院、丹南病院、赤十字病院などへの移動手段を確保することなどがございました。

また、コミュニティバスに関する満足度を尋ねたところ、約4割の方が不満を抱えておりました。中でもコミュニティバスの利用者からは、乗り継ぎがうまくできず時間を持て余すなど切実な声も届いております。

しかしながら、ほとんどの方が公共交通の必要性を認識しており、今後、公共交通の在り方として、利用者ニーズと運行系実態の溝をどのように埋めていくかが大きな課題として浮かんでまいりました。

また、公共交通に関するアンケートのほかに令和2年度に予定しております越前町の総合戦略や、令和3年度の総合振興計画の策定に合わせ、町民アンケートや中高生アンケートを実施しております。このアンケート調査では、中学2年生と3年生317人からの回答や、丹生高校生363人全員からの回答をいただき、中でも特筆すべきことは買物が不便、バスが不便、娯楽や余暇を過ごす場所が少ないなど、まちづくりの課題の中でも中高生とともに現状の公共交通に満足して

いないことが結果として表れております。

このようなアンケート調査からうかがい知ることを整理し、プロジェクトチーム内で検討を重ね実証実験の段階にまでまいりましたが、令和2年1月15日付の国土交通省の検討資料を受け、今後の国土交通省での動きが伝わってまいりました。その内容は、地域公共交通活性化再生法の見直しや一般乗合旅客自動車運送事業者などに係る私的独占禁止法の適用除外などに関するもので、公共交通体系が脆弱な地域に対して一律に規制するものではなく、地域に合った交通体系が構築できるようにするものだと伺っております。つまり、地域ごとにバス、タクシーの労働力の確保を含めサービスの維持を図りながら、サービスが不足する地域ではその他の移動手段を総動員して、地域の移動ニーズに対応するというもので、越前町のような過疎地域を包含する自治体ではかなりの規制緩和が想定されます。

このため、町といたしましては、まだその具体的な内容は示されておりませんが、国土交通省での法改正の動向を見極め、町の交通デザインに反映させたいと考え、これまでの計画を一旦白紙に戻し、再度検討することといたしました。越前町での公共交通の在り方につきましては、議員をはじめこれまでも多くの方からご指摘をいただいておりますが、決定的な解決法が見つからず今日に至っております。

私は、地域の活性化の大きな要素の1つに公共交通の充実が欠かせないものと考えており、何としても成し遂げたいと思っておりますので、議員各位はもとより関係者のお知恵をお借りして、早急に実現したいとの意思を強くしております。

次に、コミュニティバスに乗る人が増えるような工夫についてのお尋ねでございますが、バス運行当初から見れば随分と利用が減少しております。これまでも路線の見直しや、先ほどの乗り継ぎの不便を解消するための時刻表の改正を行ってまいりましたが、利用者の増加に直接結びつくような結果には至っておりません。具体的には65歳以上の方での運転免許を返納された方に10年間の無料乗車定期券の交付、また路線バスを含めて100円で乗車できる公共交通割引カードの発行、11枚つづりの回数券の販売、小中高生を対象に夏季限定の500円定期券の販売など料金面での対応が目立っておりますが、肝心なのは利便性だと思っております。徐々にではございますが、利用者の増加につながっております。

しかし、根本的な問題は解決されておりません。公共交通体系の全体の中で策を練っていきたいと考えております。

次に、観光と福祉の視点に立って、人と人とのつながりを生むカフェやサロンをバス停として活用できないかのご提案につきまして申し上げます。大変興味深いご提案をいただき、ありがとうございます。

バス停と一体化した取組は、人が集う合理性、利便性、効果などを考えた場合、ある意味理想的な空間を創り出す場かもしれません。現在、似通ったところとして役場やコミュニティセンターなどの公共施設のほか、織田病院やメルシなどが思い浮かびます。個人的には多目的な施設としてのバス停もあっていいと思っておりますので、どのような課題があるか検討したいと考えてまいります。

また、バスの中での過ごし方でございますが、走っているバスの中でできることは限られていると思っておりますので、それぞれの方が快適に過ごせる空間を探ってみたいと思っております。

今回、越前町の交通デザインを練り上げるために立ち上げたプロジェクトチームは、町職員で構成しており、ご指摘のように日頃から公共交通機関を利用している者ではなく、事前にあるいは現在、交通に関わっている主査級職員をメンバー

に据えております。過去から現在に至るまで公共交通を利用されている方々の意見を集約しながら、作業を進めております。当然議論する上で出てくる課題もあり、議員ご提案のモニターツアーも一考に値すると感じております。

いずれにいたしましても、公共交通の在り方は全国の、特に地方の喫緊の問題として取り組まれており、本町でも越前町モデルの立ち上げに全力投球していきたいと思っております。これまでも議会での議論をいただきました。一向に進まない状況に、いら立ちや複雑な思いをされている方も多いと感じております。

町といたしましては、利用する各層の方々の利便性を第一に捉え、経済性をにらみながら今の時点で考えられる最良の越前町の交通デザインを提案したいと考えておりますので、今後とも議員各位の積極的なご提案とご協力をお願い申し上げます。南議員の一般質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（青柳良彦君） 南ゆかり君。

○2番（南 ゆかり君） 大変丁寧なご答弁、ありがとうございます。再質問をさせていただきます。

手話言語条例制定に向けての質問です。おかげさまで越前町は福祉への理解が進んでいると感じています。既に町では、越前町役場福祉課と各地区のコミュニティセンターに意思疎通円滑化のためにタブレットを設置したり、手話奉仕員養成講座のテキスト助成の取組があります。また、町の職員さんが積極的に手話講座を受講して、またさらに手話ミニ講座がいろいろな場で開催されています。

私は、手話に対する理解というよい土壌が既に築かれていると思っています。具体的にいつ頃を目標に制定する計画ですか。お伺いいたします。

もう一つ、交通デザインのほうの再質問をいたします。越前町のニーズや特徴と地形に合った独自の交通デザインを、これからまた白紙から計画をすることのご答弁をいただきましたが、例えば富山大学の都市交通デザイン科など専門的に勉強をしている人、また取組が成功した自治体を参考にしたり、指導を受けるのも大切かと思いますが、いかがお考えになりますか。お聞かせください。

○議長（青柳良彦君） 町長。

○町長（内藤俊三君） それでは、南議員の再質問にお答えをいたします。

条例の制定につきましては、先ほど申し上げました勉強会や様々な方々と十分な話を行い、条例制定の準備が整った時点で、なるべく早く議会にご提案できるよう進めていけたらと考えておりますので、議員各位のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に、交通デザインについてお答えいたします。本町の交通デザインは、先ほど申し上げましたとおり、現在1つ1つの課題を整理して検討しているところでございます。また、議員ご指摘の富山大学をはじめ、全国では交通デザインを考えている機関や公共交通に関し研究を重ねている自治体が多くございます。

町といたしましては、先進地の事例をはじめ、多くの関係者のお知恵を拝借し、町独自の交通デザインをつくり上げてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。南議員の再質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（青柳良彦君） 南ゆかり君。

○2番（南 ゆかり君） ありがとうございます。

では、私の要望というかお願いなのですが、手話言語条例制定に向けて前向きなご答弁をいただき、本当にありがとうございます。

各自自治体によって条例の名前も内容も様々な個性がありますが、町長がおっしゃられたようにまず条例制定に向けて聾者や聴覚障害者に対する理解を深めるよう

な研修会が必要になります。そして、ほかの障害を持つ方にも理解していただけるような機会をつくるのが大事です。

また、条例をつくるには専門的な方に誘導していただくことが必要です。ほかの市町の条例を参考に、制定までのプロセスなどのアドバイスをしてもらうこともよいと思います。大事なのは当事者の皆さんが主体となって、当事者の皆さんの思いを組み入れた条例をつくれるように周りが支えていくことです。ですから、ある程度の時間は必要になるかと思いますが、丁寧に一步步心温まる条例がつくれるように、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

そして、交通のほうですが、公共交通の問題は利用者の立場でないと分らないと思います。私もそうですが、自動車は今の暮らしに欠かせません。あまりに便利なので自動車のない、自動車に乗らない生活は想像ができないほどです。しかし、高齢になり免許返納した方、学生さん、旅行者、また何らかの理由があり自分で運転できない方、人それぞれの境遇がありますが、交通弱者の声を聞き、思い切った越前町独自の交通デザインを実現していただくよう楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（青柳良彦君） これで南ゆかり君の一般質問を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。

午前10時45分から本会議を再開いたしますので、定刻までにご参集ください。

休憩 午前10時30分

再開 午前10時44分

○議長（青柳良彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けて行います。

次に、11番、笠原秀樹君。

なお、笠原秀樹君から時間延長申請がありましたので、20分間の時間延長を許します。

11番（笠原秀樹君）登壇

○11番（笠原秀樹君） 議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

手話通訳者が残っていただくということですので、少しゆっくりと話をさせていただきますので、ご了解をいただきたいと思います。

越前町・福井市間県道昇格推進期成同盟会についてお尋ねをいたします。越前町・福井市間県道昇格推進期成同盟会は、平成4年4月1日に志津・朝日線道路整備促進期成同盟会としてスタートしています。越前・越廼間県道昇格推進期成同盟会と同時に要望活動を続けてきたものと思っています。

しかし、国の財政状況が厳しくなる中、行財政のスリム化や効率化の徹底が求められ、同盟会が個別で要望活動を実施するより越前町一体となった要望活動を実施するほうが、予算を獲得する上でより効果的であること、またどちらも福井市との重要な連絡道路及び輸送道路となり、緊急時には幹線道路に代わる緊急輸送道路として機能することが期待される重要な道路であることから、2つの同盟会

を合併させ、今以上に一体となった広域的かつ効果的な活動が展開できるとの考えから平成27年6月に合併が承認され、7月から越前町・福井市間県道昇格推進期成同盟会となり、さらに強固な同盟会として要望活動を続けてきたものと思っています。

今回、期成同盟会総会に出席をしてきたことから、志津・朝日線について、現在までの要望活動についての経緯と今後についてお尋ねいたしたいと思います。

この路線は、県道昇格と同時に越前町栃川地区から福井市山内地区に通じるトンネル工事が主な事業で、未整備区間1,045メートルのうちトンネル部分は615メートルあります。同盟会発足から地元の期待は大きく、福井市志津川にも越前町栃川側にも早期実現を目指すことを要望する看板が掲げられていることは、町長もよく御存じだと思います。

年1回の総会にも、地元代表の方が要望決議文を朗読して、全会一致で決議していることは、私も承知をしています。他の同盟会では、毎年形に表れる結果が生まれておりますが、この同盟会だけは全くと言っていいほど進んでいません。昨年、地元代表の方々が町長に要望をされていますが、実現に向けての町長の決意をお聞かせいただきたいと思っています。

○議長（青柳良彦君） 町長。

町長（内藤俊三君） 登壇

○町長（内藤俊三君） それでは、笠原議員のご質問にお答えをいたします。

志津・朝日線は福井市島寺町の一般県道ふくい健康の森線から志津が丘団地を経て、本町の栃川区へ向け天神橋を渡り、佐々生地がかりの一般県道青野鯖江線へとつながる全長9キロメートルに及ぶ路線でございます。

本路線のこれまでの整備につきましては、福井市側においては、ふくい健康の森や志津が丘団地の造成に合わせて道路整備がなされており、市道8号線を起点として市道5路線を通り抜け、福井市山内町までの3.5キロメートルが整備済みとなっています。一方、本町側におきましては町道中央線の佐々生地係を起点として町道4路線につながっており、それぞれの路線におきまして町道の改良事業で整備を進め、栃川区までの4.5キロメートルが整備済みとなっております。

しかし、福井市山内町と本町栃川区の市町境には険しい山林が立ちはだかり、この区間の約1キロメートルが未整備区間として残っており、現在、両市町のそれぞれの地点で道路が行き止まりとなっております。

本町では、栃川区の集落入り口から集落奥の行き止まり地点までを、集落内を走る町道栃川線と栃川・亦丸線のバイパス路線として、平成の初期において農林水産省と国土交通省所管の国庫補助事業により、町道志津線として整備を進めてまいりました。しかしながら、両市町間にはだかる山林区間におきましては、トンネルの整備が必然であり、相当の費用、財源を要することとなるため、当時、旧清水町と旧朝日町の合意の下、本路線の2町にまたがる広域道路としての位置づけを鑑み、県道昇格の実現とその後の道路整備につきましては県に委ねることとし、県当局と協議を進めることになりました。

こうした中、平成4年に本路線の県道昇格を目的とした志津・朝日線道路整備促進期成同盟会が設立され、旧清水町と旧朝日町による要望活動が行われておりました。その後、平成17年の町村合併以降、福井市と本町により要望活動を続けておりましたが、平成27年に目的を同じくする越前・越廼間県道昇格推進期成同盟会との統合を図り、新たに越前町・福井市間県道昇格推進期成同盟会として現在まで活動を行ってまいりました。

しかしながら、これまでの長期間にわたる同盟会の活動におきましても、いまだ県道昇格が実現せず、道路整備が一向に進まないことは紛れもない事実でございます。このような背景には、本町の住民生活はもとより産業や観光の振興に欠かせない基幹道路となる国県道の改良整備の立ち遅れが1つの要因であると考えております。本町内の国道3路線におきましては、国道417号の青野・鎌坂間、国道305号厨バイパス、国道365号梅浦バイパスの第一期工事工区及び舟場・八田間など、いずれの路線も一定の改良整備が図られたのは、平成の中期から後期にかけてでございました。

本町内を走る14路線の県道におきましては、いまだ開通していない路線が1路線、さらに局部的に1車線分の道幅しか確保されていない路線が4路線あるような状況で、町としてもこの現状を見過ごすことはできません。

これら本町内の基幹道路の整備は、他地域の路線と比較すると随分と後れを取っていると感じており、国道、県道の未改良区間の改良整備につきましては、今後とも引き続き国・県に対し要望してまいりたいと考えておりますが、このような背景があるということで、本路線の早期の県道昇格と改良整備が進まなかったことをご理解賜りたいと思います。

しかし、本路線が開通することによる本町の住民福祉の影響を考えますと、朝日地区からはふくい健康の森やその周辺地域、さらには福井市の市街地までは短時間で行くことができるようになり、地域住民の日常生活の上で利便性の向上が図られることとなります。また、背後に険しい山林を背負っている栃川区にあっては、豪雨や長雨の際には斜面の崩壊や土石流の発生により、集落内を流れる栃川側が氾濫する可能性が高く、併せて天王川の堤防が決壊するなどの非常事態が発生したときには下流側への避難は困難となり、本路線を利用して福井市側へと避難することが可能となります。

本町における地域住民の利便性や安全で安心な生活を確保することが我々の使命である以上、私も本路線の必要性は強く感じております。したがって、今後は早い段階での県道昇格、あるいは道路の改良整備に向けて福井市とも密に連携を図りながら、一層努力してまいりますのでご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。笠原議員の一般質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（青柳良彦君） 笠原秀樹君。

○11番（笠原秀樹君） 今日、地元の関係する方々をはじめとした皆さんが、今まで期成同盟会に関わってこられた皆様が傍聴に駆けつけてきていただいております。

町長の答弁をどう受け止められたかは、皆様方にお任せするとして、私は越前町内にある期成同盟会でこの同盟会に関わる皆様方こそ、本当に熱意を持って今まで要望活動を続けてこられたと、私は思っております。町長も御存じのように、同盟会の総会に資料の中にこういう写真、これトンネルは栃川側、志津側にはこういう、両方にこういう看板まで同盟会で作って、恐らくいつかは通じるのではないかと、そういう希望を持って、今まで来てこられると私は思っています。

そこで、第2の再質問に入りたいと思います。福井市とは本町を含む10市町がそれぞれ連携中枢都市圏の形成に関わる連携協約を昨年4月1日に締結し、人口減少、少子高齢化社会にあっても地域経済を持続可能なものとし、地域住民が安心して快適な暮らしを営むことができる圏域を形成することとしています。また、全体の経済成長の牽引、高次の都市機能の集積強化、生活関連機能サービスの向上など今後のまちづくりの大きな役割を持っていると考えます。

本町は福井市に隣接し、特に志津地区は旧清水町で丹生郡として圏域を形成してきた間柄であり、この道路が県道に昇格しトンネルで結ばれば、志津が丘団地500棟に住む人たちにも本町との交流道路として、観光はもちろん北陸自動車道や国道8号へのアクセス道路としても、利用価値の高い路線であると思っています。

今日まで20年以上も、地元の方々から見れば置き去りにされてきたと思われても仕方ないと思いますが、次回、期成同盟会総会では明るい見通しのできる総会になることを期待をして、さらなる町長の答弁をお願いいたします。

○議長（青柳良彦君） 町長。

○町長（内藤俊三君） それでは、笠原議員の再質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり福井市と本町をつなぐ本路線は、生活道路としての機能だけではなく、経済・文化の交流はもとより観光・産業の発展、あるいは北陸自動車道、国道8号へのアクセス道路として、また幹線道路の代替道路として重要な役割を果たす道路であることから、第2、第3の幹線道路として県道昇格、道路の改良整備に真摯に取り組んでまいりたいと考えております。

また、福井市は本路線に関し嶺北11市町での連携中枢都市圏の形成上、本路線の県道昇格、改良整備により福井市と本町を含む丹南地区とのアクセス性が強化され、経済・文化の交流促進が図られるものと考えを示しておりますので、本町も福井市と一体となってこの大きな課題に取り組んでまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げ、再質問に対する答弁とさせていただきます。

○議長（青柳良彦君） 笠原秀樹君。

○11番（笠原秀樹君） この期成同盟会につきまして、去る3日、福井市議会で榊原議員が質問をしています。その折の東村市長の答弁は非常に前向きで、越前町とも密に連携を図って国・県なりに強く要望をしましてまいりたいという答弁をされておられます。

杉本知事は、知事選が終わってから昨日までのことはノーサイドと発言をされまして、町との連携を強め観光客誘致に力を入れ、競争から連携、融和へと明確な目標を持ち徹底した現場主義でと話をされています。今までのことはもう水に流すと、私もこの知事選に関しては、これはもう越前町の西川さんご推薦でありまして、一生懸命応援をしました。それらも含めて知事はノーサイドということですので、恐らくそんな差をつけるようなことは決してないと私は思っています。

先日、京都橘大学の教授で竹内直人さんのお話を聞く機会がありました。先生は、県や国に要望するときには、もう大ぼらも吹かなきゃ駄目ですよ、そして、このトンネル工事、当然時間とお金がかかります。しかし、国あるいは県からはどうでも地域連携交流推進交付金とか、いろいろな名目で財源は出てくると、そういう先生もお話をされておられます。大体メーター4,000万円で計算して、約280億円。私は、これ1年には無理でしょう。幾ら県の5,000億円のあれがありますけれども、これは無理でしょうから、例えば何か年計画でという計画で取り組んでいただけるということをしてできるんじゃないかなと思っております。

福井市と今、町長答弁にもありましたように、我が越前町が今こそワンチームで目標達成に努力すべきではないかなという思いを持っております。これは、地域の声として要望を申し上げさせていただきます。近隣市町との連携、交流、物流、観光、緊急時の避難、物資の輸送など道路は何本あっても利用されることは間違いはございません。

最近の気象用語にも50年に一度、特別警報と、ほとんどこれがもう毎年のように発令されるのが普通になってきています。過去の災害を見ますと、平成16年7月福井豪雨で足羽川堤防決壊、平成18年7月、南九州、北陸、長野、山陰地方で梅雨前線に伴う記録的豪雨、平成25年台風18号、嶺南で大雨特別警報発表、平成30年10月台風21号、四国、近畿、北陸地方で暴風雨、令和元年10月台風19号、多摩川あるいは阿武隈川、千曲川、記録的な大雨で堤防決壊など大変な災害が起きています。

本町の天王川も、あと1時間雨が降り続いたとしたら、もう大変な状態になっていたのではないかなという、そういう思いで天王川を見つめたことが、私も今まで何回もあります。もちろん天王川左岸にもしものことがありましたら、これは町長の答弁にありましたように、川のほうへ逃げるわけにはいきませんので、当然山のほうに行くようになります。この道路がトンネルで福井市で結ばれたら、本当に町長の言われる地域の皆さんが安全・安心で暮らせるのではないかなと、私は思います。

町長御存じかどうか分かりませんが、今年、坪谷トンネル、今あるあのトンネルですが、単独事故がありました。あそこは歩道があります。ガードレール、5メートルか6メートルほど壊れてしましまして、上下通行止めになりました。大渋滞とも言えませんが、渋滞が起きました。これ、もしこの道路が既にできていたとしたら、こんなことはなかったんじゃないかなという思いで、私も見つめていました。

高齢化、少子化、また空き家問題など、今発表される数字に、本当にこの先明るい、こんなことがあるぞ、いいことがあるぞというようなことが少ないんですね。この道路問題もやっぱり時間がかかる、それはもう分かるかもしれませんが、せめて私が元気なうちに目標を達成したいと思うのが強い気持ちでございます。今、天神橋の改修付け替え工事が行われています。これが、令和4年1月、せめてこの天神橋が完成する頃にはトンネル工事が少しでも、工事がかかっていたらと今思う気持ちを強く持っていることでございます。後世の方々に必ずこの道は完成するよというようなことが、話ができるように、一日も早い要望が実現することを望んでいます。

町長も御存じだと思いますが、経済界が杉本知事に新幹線開通と同時にフルマラソンを開催してほしいという要望をされました。どこをスタートしてどうするかは分かりませんが、大森からこのトンネル、開通したここを通過して仮称南越駅はどうか、通るか分かりませんが、そんなコースに入れていただければこんないいことはないなという思いでございます。

この道路は、確かに基幹道路からは離れているかもしれませんが、基幹道路から離れている道路の地域の方は我慢しなさいでは、これは悪い。公平・公正な町政の中には入らないんじゃないかと、私は思います。

今、福井市と特に密に連携を図りながら、一層努力していただけるという町長の答弁をお聞きいたしました。もう今年の期成同盟会も総会が開かれると思っておりますが、その期成同盟会には少しでも前進をしたという報告が聞かれることを強く要望をいたしまして、私の質問を終わります。

○議長（青柳良彦君） これで笠原秀樹君の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、11時25分から全員協議会を開催いたしますので、議案をご持参の上、全員協議会室にお集まりください。

散会 午前11時15分